

実践のまとめ（第2学年 英語科）

長岡市立江陽中学校 教諭 高井 伸弥

1 研究テーマ

自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えられる生徒の育成 ～中間指導の充実を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、話すことの領域で、「やり取り」と「発表」の資質・能力を身に付けることが求められている。これまでの授業において、ペアトークやピクチャートーク等で、「やり取り」を、メモをもとに自分の考え等を伝える「発表」の活動に繰り返し取り組んできた。しかし、生徒たちの姿からは、「話すこと」を扱う際に、原稿を書いてそれを読み上げる、または暗唱してそれを発表することをもって言語活動を行う傾向が少なからず見られた。そこで、原稿や用意した文章に頼ることなく、自分の意見や考えを相手に伝える力を育むことが必要であると考えた。そのためには「事実や自分の考えを整理する力」と「伝えたい内容や順序の工夫すること」が必要であると考えた。以上の2つの力を生徒に育むために、言語活動後の生徒に内容面と言語面における中間指導と学習の積み重ね、構成内容の推敲が有効であると考え、このテーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

中間指導の充実について

中間指導の充実を目指して、まずは生徒たちの「英語で言いたかったけれど言えなかった表現」を大切にしたい。そのために、生徒たちには自分のオリジナルの意見をもたせ、言語活動に取り組みさせる。今回のパフォーマンステストでは、4、5人のグループで「将来、役に立つと思う教科」や「好きな給食」のランキングを作成し、発表する。ただ一般的な意見をまとめたランキングを発表するのではなく、なぜ自分たちはそのような順位付けにしたのかを自分たちの実体験をもとに発表することで、言語活動をより自分事として捉えさせたい。生徒自身が伝えたいと思う様々な意見や理由をもち、それらがどのようにしたらより伝わりやすくなるか学習する場を言語活動後に設定する。学級全体で有効な表現や多く見られたエラーやミスを共有する時間を作る。言語活動後にはフィードバックを通して、次の言語活動時に、更に自分の伝えたいことを伝えられるようにしたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

○授業アンケート

- ・「発表活動やそこに向けた準備や練習に、発表内容や構成を意識して取り組めた」の項目において、肯定的な回答への変容が見られる。
- ・「自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えられたか」の質問に対しての生徒記述の内容に深まりがある。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson 5 Things to Do in Japan (NEW CROWN 三省堂)

(2) 単元（題材）の目標

A L Tや他クラスの友人に、自分たちのことをより知ってもらうために、「江陽中生のトレンド」を生徒たち自身の実体験や過去の事実をもとにしながら紹介することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較表現を用いた文の意味・構造を理解している。	・A L Tの先生と友人に自分たちのことをより知ってもらうために、「江陽中生のトレンド」を自分たちの過去の体験や事実等を交えながら発表の練習をしている。	・A L Tの先生と友人に自分たちのことをより知ってもらうために、「江陽中生のトレンド」を自分たちの過去の体験や事実等を交えながら発表の練習をしようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全14時間、本時13／14時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	扉、Preview (p71) ・導入 ・本単元とUSE ・単元のゴールとループリックの確認	◎単元のゴールを確認しよう。 ◎「江陽中生のトレンド」作成に向けた作戦を立てよう。	
2 (2)	・GET Part 1 ・前時の復習 ・導入、概要把握 ・比較表現（比較級・最上級①）	◎世界の建築物を比べてみよう。 ◎ニュージーランドの情報をまとめよう。	知識・技能 比較表現（比較級・最上級①）の意味や用法を理解している。【ワークシート】
3 (2)	GET Part 2 ・導入 ・概要把握 ・比較表現（比較級・最上級②）	◎外国人が考えるCool Japanとは何だろう？	知識・技能 比較表現（比較級・最上級②）の意味や用法を理解している。【ワークシート】
4 (2)	GET Part 3 ・導入 ・概要把握 ・比較表現（比較級③ 原級）	◎外国人観光客に人気の文化活動について考えよう。	知識・技能 比較表現（比較級③原級）の意味や用法を理解している。【ワークシート】
5 (3)	USE Read ・本文導入 ・STAGE 1 ・STAGE 2（概要把握）	◎Jacobのメールの内容をとらえよう。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Goalメールの要点まとめ ・ Think and Talk 	◎Wakaba JHSの姉妹校への歓迎会を企画しよう。	
6 (4)	<p>USE Write</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集めたデータを基に、発表構想メモを作ろう。 ・ 構想メモをもとに発表練習をしよう。 ・ モーガン先生と友人に「江陽中生のトレンド」紹介をしよう 	◎モーガン先生と友人に江陽中生のトレンドを紹介しよう。	<p>思考・判断・表現</p> <p>「江陽中生のトレンド」を自分たちの過去の体験や事実等を交えながら発表の練習をしている。【発表練習の様子】</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ランキングとその理由や情報を整理して、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。【パフォーマンステスト】 【発表練習の様子】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

今回、Lesson 5からUSE Writeまでで構成される単元では最終ゴールを、ALTに江陽中生のことをより知ってもらい、仲を深めるために、江陽中生のトレンドを紹介するスピーチをパフォーマンステストのゴールとして設定した。一般的なランキングではなく、自分たちオリジナルのランキングを作成し、発表することで生徒の活動意欲を高めたい。また、スピーチの相手をALTと他クラスの生徒とした。コミュニケーションの目的・場面・状況と相手意識をもたせ、文章の構成を意識してパフォーマンステストに取り組むことを指導したい。

本単元では目標達成を支える言語材料として、比較表現を学習する。2年生の興味・関心のある事柄と関連させ、身近な場面設定を行うことにより、新出の比較表現やその文構造と使用場面等について理解させたい。

(2) 生徒の実態

積極的に発声練習や対話活動に取り組むことができる。各授業の最初で継続的にSmall Talkに取り組んでおり、提示されたテーマをもとに質問したりすることができるが、平易な表現ばかりであったり、自分の伝えたい内容の構成を考えるとなく伝えたり姿も見られる。

5 本時の展開 (令和6年10月17日実施)

(1) ねらい

発表練習とスピーチ振り返りタイムを通して、自分たちのスピーチをよりよいものにしよう。

(2) 展開の構想

本時では、パフォーマンステストの練習の1回目と2回目の間に発表の振り返りの時間を設ける。生徒たちの発表から全体で共有したい“Good Expression”と“Nice Mistake”を取り上げて、生徒とともにどのようにしたら伝わるかを考えて、2回目の発表練習が更に充実したものになるよう指導する。その際に表現できなかった内容を確認し、必要であ

ればメモに残し、蓄積させる。また、伝える内容の順番を再検討したり、内容や構成を推敲したりすることで相手への伝わりやすさや文章のまとまりへの意識を高める。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒） の反応	<input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 留意点
5	1. 前時の振り返りと 前時に撮影した発表練習 の動画を見てルーブリッ クをもとにコメントす る。 2. Today's Goalの確認	○教師主導で前時の発表 の様子についてルーブ リックをもとにコメン トする。	
<p>Today's Goal Practice your speech and make it better. Give advices to your friends.</p>			
40	3. 発表用メモの確認 前時までに作成したメモ の内容と構成について確 認する。 4. 発表練習① (グループ対グループ) 教師主導の中間指導を行 う。 5. 振り返りタイム① 6. 発表練習② (グループ対グループ) (動画撮影も行う。) 7. 振り返りタイム② メンバーの発表につい て、ルーブリックをもと に評価し、アドバイスや コメントを送る。	○生徒が作成したXチャ ートの構想メモを配付 する。 ○生徒が英語使用の正確 さにこだわりすぎない よう確認する。 ○発表練習の様子から共 有すべき表現と「言 いたかったけれど言え なかった表現」につい て確認する。 ○発表の様子を動画に撮 影する。聞き手の生徒 はルーブリックをもと に、評価し、発表者に コメントを返す。	○slow learnerに対してモ デル文を参考にしたり、 平易な表現とデータを指 し示したりして練習す るようアドバイスする。 <input type="checkbox"/> ねらい達成に向けて、練 習をしているか。 ◇共有すべき表現は「訂 正」だけでなく、良か った表現を多く取り上 げる。 ◇撮影に使用する端末は 発表グループの生徒の ものを使用する。
8	振り返り ・本時のねらいの達成状況や 気づきについて記入する。	○本時のねらいに沿った 振り返り項目について と「言いたかったけれ ど言えなかった表現」 があれば記述する。	◇本時の感想だけになら ず、次回の発表につな がるような記述をする よう声をかける。

(4) 評価

- ①スピーチの練習や振り返りの活動を通して、より相手に伝わりやすいスピーチを行うことができる。（思考力・判断力・表現力）
- ②互いのグループの発表がよりよいものになるよう、ループリックやモデル文を参考にしながらアドバイスを送ることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

今回の実践では、Xチャートを用いて、「事実や自分の考えを整理する力」と「伝えたい内容や順序の工夫できる力」の育成を目指した。生徒たちはチャートのキーワードをもとに、自分で伝えたい内容を英語で表現する姿が見られた。

発表練習①では、スピーチの聞き手であるALTが知らないであろう商品名やキャラクターの名前を説明することなく使用していたグループが複数見られた。そのため、練習後の振り返りタイム①では、聞き手の立場に立って構想を練り直すよう指導した。

発表練習②ではグループ同士で発表練習を行い、動画も撮影した。聞き手はループリックをもとに相手グループの発表を評価しながら発表を聞いた。

その後、記入した評価をもとに、発表者へコメントを返す活動を行った。返された評価やコメントから、すぐに構想を練り直し、表現をよりよいものにしようとする生徒の姿が見られた。

(2) 研究テーマに関わる評価

①「発表活動やそこに向けた準備や練習に、発表内容や構成を意識して取り組めた」の項目について、単元開始時で、「はい」と答える生徒は7名であった（表1）。また、内容や構成をどのように意識すればよいか分からない生徒も多かった。上記の質問については、「話すことの活動では、言いたいことをただひたすら伝えているだけだった」や「思いついたことを英単語にして羅列するだけで、構成や話す順番を意識していない」といった記述が多かった。しかし、単元終了後の回答では、「発表活動やそこに向けた準備や練習に、発表内容や構成を意識して取り組めた」と実感できる生徒が23名に増えた（表2）。Xチャートを活用したり、言語活動の間の中間指導を行ったりすることで、スピーチの構成や、伝える順番を意識できた生徒が増えたと考えられる。生徒のワークシートからは「自分の考えや意見だけでなく、文と文の流れを意識して話すことを意識できるようになった」や「Xチャートを用いることで考えを整理し、相手に伝えることができた」、「自分の考えや意見を伝えてから、理由を言うよう意識したら相手により伝わりやすくなったと感じた。」という記述が多く見られた。お互いの発表を評価しあったり、自分たちの発表構成を何度も考えたりすることで、内容や順番を意識して言語活動に取り組めることができるようになった生徒が増えたと考えられる。

表1 単元開始時

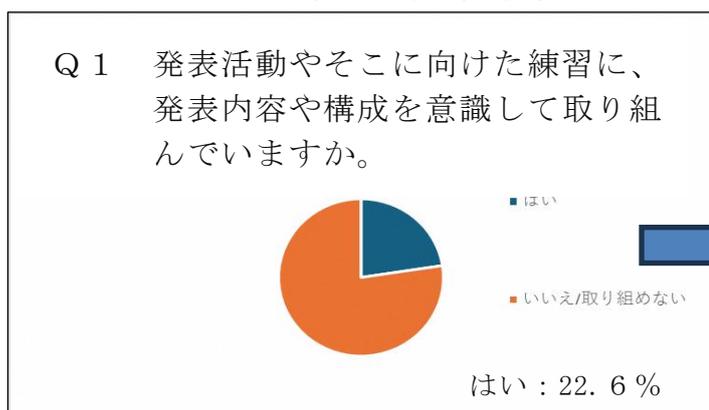
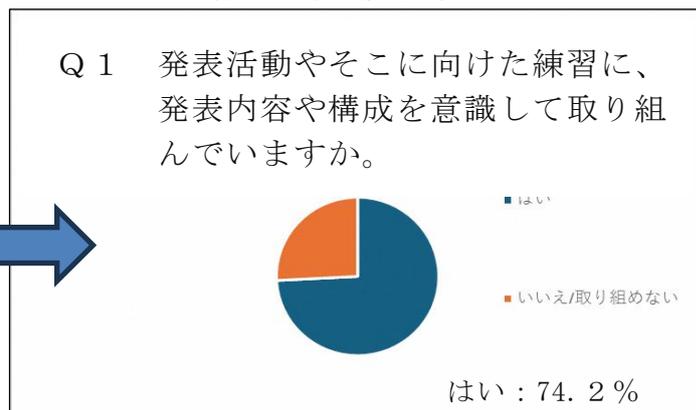


表2 単元終了時



②「自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えられたか」の質問に対する生徒の記述について、以下のような変容が見られた（表3）。単元終了後、多くの生徒が自身の学びを深めたことが記述から読み取れる。

単元開始前から根拠や理由とともに自分の意見を言えていた生徒の記述は、特に深まりのある記述となっていた。英語があまり得意でない生徒たちの記述には、自分の意見に理由を加えることで、相手の共感を得られることができたというコメントが多いことが印象的だった。

表3

単元開始前の記述	単元終了後の記述
自分の意見や考えをテーマに沿って話していた。理由を伝えているつもりだったが、相手によく伝わらないことがあった。	以前よりも意見に加えて理由や具体例を相手に伝えることができた。 <u>理由や具体例を加えることで、自分の意見や考えに自信をもつことができた。</u>
自分の意見・考えに理由を加えて話している。 単元終了後、多くの生徒が自身の学びを深めたことが記述から読み取れる。	自分の意見・考えに理由を加えるだけでなく、今回の単元では「自分の体験」も入れることができた。 <u>「自分の体験」も意見の理由の一つになることが分かったし、相手に関心をもって聞いてくれて嬉しかった。</u>
自分の意見や考えを伝えている。根拠や理由についてはあまり自信がない。	<u>Xチャートを使って、今までよりも詳しく、適切な内容で相手に伝えることができるようになった。</u> 正確な英語もこれから意識していきたい。

（3）今後の課題

本時で行った「振り返りタイム」では、お互いがループリックを用いての評価とコメントを送り合う活動をすることで、生徒たちのスピーチがよりよいものになったと感じた。しかし、評価項目の音量やアイコンタクトに関するアドバイスが多く、相手のスピーチ内容へのアドバイスやコメントが少なかった。発表したメモを見ながら生徒同士が話し合う時間を設定したり、アドバイスを考えたり送ったりする時間を増やす必要があったと考える。また、十分な発表練習で音量やアイコンタクトの課題をクリアしてから「振り返りタイム」を設定するほうが良いのか、「振り返りタイム」ごとに重点的に評価する項目を変えたほうが良いのかを考えていきたい。

また、生徒たちは自分の考えや意見に根拠や理由、自分の体験を加えながら発表とすることができたが、その理由や根拠に妥当性が欠けるものも見られたり、「意見」の次に「理由・根拠」を述べてスピーチが終わってしまったりしている生徒が見られた。理由や根拠の妥当性について考えさせたり、導入から結論までの文章構成についても考えさせたりすることで、生徒の考えや意見により説得力のある理由や根拠をもたせたい。

<引用・参考文献>

文部科学省（2018）. 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂出版株式会社